

千年の森便り No.177

2018.04. 20

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

15年目の活動に向けて

代表 坂本文雄

4月15日、年度初めの定例活動日に総会が開かれました。

当日は朝から風雨が強く、豊英島へ向かう途中で見た孟宗竹琳では竹が根元から大きく揺られて水中の藻の様でした。このような悪天候にも拘わらず、多くの会員が出席してくれたので総会成立の条件はクリアーでき、議案は全て承認されました。

総会資料の作成、雨天に備えて事前に室内の会場確保してくれた事務局と建設的なご意見、提案で熱心に討議して下さいました会員の皆様に感謝します。

会創設の15年前に比べれば熱気、驚きと感動は次第に薄れるのは自然の成り行きですが、今回は規約改定により会員増を増やす試み、島外に活動の場を広げるなどの案件も承認されましたので、これからの地道な活動と発展を期待しています。安全に楽しくをモットーに今年もよろしくお祈りします

活動の記録

4月15日(日) 暴風雨後晴

参加は秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、大原、苅米、坂本、成沢、根本、福島、松田、真鍋、村野、山口の会員14名。午前中は県民の森の建物を借りて年次総会、暴風雨のお陰でじっくり話し合い出来ました。昼食の後豊英島へ向かい、島に着くころ風雨は止み、島の上空は青空、マルバアオダモやコバノガマズミが咲き乱れ、林床にはエビネやフデリンドウなど春の花々が咲き始めた新緑の森を散策し、植物や野鳥の観察を楽しみました。作業は危険木の処理作業のみ。事前の予想に反して楽しい活動日でした。(真鍋)



荒天のなか14人出動、新緑の森は晴れてした

○年次総会

平成30年度総会は荒天にたたられたが、清和県民の森管理事務所のご好意で木のふるさと館駐車場近くの建物をお借りし、出席13名、委任状7名で開催されました。

「29年度活動報告」と「決算」、「平成30年度事業計画」と「予算」については、活発な質疑応答を経て承諾され、さらに島外の農地の一部を借りて活動の幅を広げる提案があり、前向きに検討、試行する方向となりました。

任期1年のため毎年行われる役員人事については、坂本代表以下幹事は全員留任で、退任された監事の吉沢さんの後任には秋元さんが選出されました。

また、規約の改正について会員から提案があり、会員資格を16歳以上としている制約を外して何歳でも会員として歓迎することとし、それに伴い会費については16歳以上のみから徴収することとなりました。

今総会は思わぬ悪天候に見舞われたが、結果的に室内でじっくりと議論を交わす時間が取れ、日ごろの疑問や思いを忌憚なく話合う貴重な機会となりました。(伊藤)



天候のお陰で総会ではじっくり議論出来ました

○植物観察

豊英島に渡る橋を通りながら、最初に目に入ったのは橋の横で白い花を咲かせているマルバアオダモでした。今年は植物の生育、開花が例年よりも1～2週間早くすでに島は新緑に包まれていて、その中で咲く白い花はひととき華やかに感じました。

・ヒカゲツツジ

4月の一番の目当ては、3月の活動日につぼみを持っているように見えたヒカゲツツジの開花確認です。

真鍋さんと禁断の岬に向かい、オーバーハングしている崖の上から恐る恐る身を乗り出して崖下を覗き込んでみると…やった！咲いていました！それも、花の数で10以上あるのでしょうか。崖の崩落でかなり弱ってしまったように見えたヒカゲツツジですが、しっかり花を咲かせているところを確認できてほっとしました。

・ヒメフタバラン

ヒカゲツツジを確認したあと、さらにヒメフタバランの様子を見に行きました。葉を開いているものは20個体以上ありましたが、開花しているものは少なく、確認できたのは3個体だけでした。花はすでに終わっていて、種ができ始めているようでした。うまく種子を散布してくれるとうれしいです。

・コショウノキ

3月に白い花を咲かせていた株を確認したところ、緑色の実ができていました。これで、新たに見つかった株のひとつは雌株だということがわかりました。最初に見つかった個体とあわせて2個体が結実していました。

・ユウシュンラン

真鍋さんと、そういえばこのあたりにユウシュンランが出ていましたよね、と話しながら歩いていた足元に、2本のユウシュンランが寄り添うように出ていました。時期的にはもう少し遅いかと思っていましたが、今年はやはり早めなのかもしれません。つぼみは全部で5個ついていました。最初の2個体のあと、真鍋さんがもう1個体見つけ、そのあと新井さんが4個体見つけ



ユウシュンラン



マルバアオダモ



ヒカゲツツジ



ヒメフタバラン



コショウノキ

計7個体を確認しました。こちらも結実して種を飛ばしてくれるといいですね。(記事・写真とも福島)

エビネやツクバネウツギ、ウリカエデなども賑やかに咲いていました。

(真鍋、画像は坂本)



エビネ



ツクバネウツギ



ウリカエデ

○色とりどり-春の花たち

午後の森は風の手伝いもあってか雨水は蒸発したようで、ギャップ更新林の中を歩いても水滴は付きません。鶴沢さんも関心を持って参加してくれました。チゴユリの小さな白い花をはじめ、ミツバツチグリの黄色、フデリンドウの青、ニオイタチツボスミレの紫、コバノガマズミの白が其々自己を主張していました。他では見られなくなったオケラですが、ギャップ更新林では多くの株がすくすくと生育していて、秋のブラシ状の花が楽しみです。



コバノガマズミ(坂本)



チゴユリ(坂本)



フデリンドウ(鶴沢)



ミツバツチグリ(伊藤)

広場手前のコバノガマズミも満開でしたが、隣にあるガマズミはやっと一つだけ硬い緑色の小さな蕾が出ているだけでしたから、他のガマズミはどうかと近くの木々を確認しましたが蕾は全く確認出来ません。開花時期がこんなに違うことに今日まで気が付きませんでした。広場には他にニガイチゴ、ツクバネウツギの花も満開でした。島を去る頃には風は殆どなく、橋のたもとのマルバアオダモの花がみごとでした。(新井通子)

・ヤマブキの事

千年広場のギャップ更新林の片隅にヤマブキが芽生えて、今年は初花を咲かせました。

ヤマブキは庭や公園に植えられているので、あのような平地にあっても違和感を持つ人は少ないと思いますが、私がこれまで見た自生地環境とは大きな違いがあります。写真は三島ダム下流の急な岩壁にへばりつく様に咲いている姿です。ダムが出来る前はこのような景色が川沿いの随所に見られました。直立しても人の



背丈ほどにしかならないヤマブキにとって大木が生えられないこのような場所だからこそ生存競争に勝てるのだと思います。

千年広場のヤマブキは偶然あの場所に種が運ばれ、更にタイミング良く高木が切られたので発芽でき、同時に芽生えた他種のライバルに打ち勝って花が咲くまで成長できたのだと思います。今後は高木の生長と共に日照が遮られて永くは生きられない運命にあります

が、その前に少しでも種を残して次世代に望みをつなぐのが植物に共通の戦略だと思います。自ら動けない植物は与えられた場所が多少不適でも懸命に生きているのを不平不満の多い人、諦めの早い人に見てもらいたいものです。(坂本)

○野鳥の記録 (メモの順)

キセキレイ1 ウグイス囀り ヤマガラ囀り ハシブトガラス声 コゲラ声 メジロ囀り トビ4

ヒヨドリ2+声 オオルリ囀り キンクロハジロ6 以上10種

新緑の中、繁殖に伴う囀りが聞こえました。ヤマガラのやや間延びしたような声は島のあちこちで聞こえましたが、シジュウカラの囀りが今回聞こえなかったのがちょっと不思議です。

ホテイ岬対岸の崖から夏鳥のオオルリの美声が聞こえ、今年も無事に渡って来たと分かりました。

冬鳥の鴨、キンクロハジロはそろそろ北の繁殖地へ旅立つでしょうから、野鳥の世界は夏冬の入れ替わり中です(坂本)

・トビの産卵

鶴沢さんはシャシャンボの下のトビの巣に卵2個産卵しているのを見つけました。昨年は産卵がなかったので、2年ぶりの産卵です。新井さんによると親鳥はシャシャンボ観察中に巣を離れたようですが、私たちが島を離れるまで巣に戻りませんでした。親はかなり神経質で人が近付くと巣を離れます。

無事雛が孵り巣立つまで人間が邪魔しないよう注意しましょう。会員一同、雛の健やかな成長と巣立ちを願って。(記事・写真とも真鍋)



親が離れたトビの巣に卵2個

シャシャンボの木を探している途中、鳶の巣の中に2個の新しい卵を見つけることが出来ました。親鳥はいませんでした。今年も無事巣立ってくれるよう皆で見守ってほしいと思います(鶴沢)

(おまけ)・センチコガネ

落ち葉の上にじっとしていたのでドアップで撮影してみました。ネットで調べると、前胸背板の中央の線がはっきりしないこと、頭楯は短く半円形であることから、オオセンチコガネではなくセンチコガネだと思われる。(記事・写真とも福島)



センチコガネ

・ジャコウアゲハ♂もいました。コバノガマズミの花にいましたが、高く舞い上がり写真は撮れませんでした。(真鍋)

〇きのこ

千年の森のきのこの発生は、まだ少し早いようで、4月15日に観察したキノコは僅かでした。

ウラベニガサ ウラベニガサ科 ウラベニガサ属

ウラベニガサは春型のキノコで、古くなったシイタケのホダ木などをを好みます。癖のない出汁が出るので吸い物向きます。

ベニタケ属2種 ベニタケ科 ベニタケ属

慌て者のベニタケ属種は、肉眼では確定できません。

ヒトクチタケ サルノコシカケ科 ヒトクチタケ属

ヒトクチタケは、春に立ち枯れになったマツの木皮から発生します。成長すると付け根に穴を開け、胞子を放散します。(記事。写真とも松田)



ヒトクチタケ



ウラベニガサ



ベニタケ属種

〇危険木処理作業

午前中の突風交じりの荒れた天気で枯れ枝が散乱していました。落ちて突き刺さっている枝も多数あり、強風の危険な状態を目の前にし、散策路に落ちた枯れ枝を除去しました。散策路を一巡した後に、枯れて高さ5メートルのところまで直角に折れていた島最大の危険木のアカマツをロープを駆使し安全に伐倒しました。他に裂けて倒れかけたスギを1本伐倒しました。散策路を外れた森の中にはまだ危険木がありますので、森に入るときは上部にも気をつけてください。



豊英島はもちろん森林に入るときは必ずヘルメットの着用をお願いします。(記事：根本、写真：坂本)

お知らせ

〇5月定例活動日 5月13日(日) 9時30分 清和県民の森木のふるさと館駐車場集合、「初夏の豊英島と清和県民の森を楽しむハイキング」を実施します。詳細は別紙チラシをごらんください。どなたでも参加できます。また、千葉の自然に親しむ会がバス(千葉駅 NTT 前 7:30分発)を運行します。利用希望者は、盛一さん(043-278-4048)までお問い合わせください。有料です。

30年度活動計画

会設立以来の活動成果を踏まえ、今後の課題を明確にして、規約第3条の目的達成のため以下の通り活動計画を決定し、実行する。

森林整備	1. 生物多様性保全を基本に、植生保全、ギャップ林更新、危険木処理等の位置づけを明確にして除間伐及びブッシュ状低木の除去を行う。 2. ホテイ岬、ギャップ林の植生状況を確認しながら、整備を行う。	
ヒメコマツ	1. 房総のヒメコマツ保全に寄与するため、植栽されたヒメコマツの専門家調査に協力するとともに、必要な手入れを行う。	
巨木林調査	下層木調査、成長量調査を継続実施する。 (1) 成長量調査	
ニホンシカなど動物生態調査と食害対策	1. センサーカメラによる動物生態調査を継続実施する。 2. ニホンシカ頭数調査を継続実施する。(計4回) 3. 植生保護柵の補修又は改修を行う。	6・9・12・3月
植生調査	1. 植物調査を継続実施する。調査対象、調査記録方法、標本作成方法など必要に応じて改善する。必要に応じて講師又は協力者を依頼する。 2. 希少種保護のため、その存否確認及び位置情報の集約を行うとともに、個別に適切な調査保護を行う。	
野生キノコ	1. キノコ観察会を実施する。(夏・秋) 2. 継続的にキノコ調査を行うとともに、リスト・標本作製・写真撮影収集に努める。	8月、10月
野鳥観察	1. 野鳥調査を継続実施する。 2. 営巣等が認められた場合は継続観察をする。	毎月
昆虫調査	1. 昆虫調査を継続実施する。	適宜
照度調査	1. 島内各所、ヒメコマツ植栽域の調査を継続する。	年2回
研 修	1. 自然観察会(県民の森・島内)を実施する。 2. 必要に応じて適宜ミニ研修を実施する。	5月 随時
キノコ栽培	1. 状況に応じてシイタケ・ヒラタケ等の栽培を行う。	
広報関係	1. HPを適宜更新し、情報発信に努める。 2. 会報誌『千年の森だより(電子版)』を有効活用する。 3. 「豊英島の自然」をPDF化し、必要に応じて提供する。 4. 「続・豊英島の自然(仮称)」の準備に着手する。	
環境整備	1. 水源地保護のため水辺の清掃を実施する。 2. 物置を点検整備し、不要保管物を整理する。 3. 広場・ベンチ・観察路案内板を整備する。	
島外活動	1. 島外の農地とその周辺を新たな活動地とし、草刈り等の環境整備を行う。	随時

平成30年度月別活動計画

月 日	主な活動	摘 要
4月15日(日)	年次総会、自由散策、危険木処理 植物・野鳥・昆虫調査	
5月13日(日)	県民の森自然観察会(内部講師) 植物・野鳥・昆虫調査、ギャップ林植生調査	公開行事
6月10日(日)	シカ個体数調査1 環境整備(水辺)、危険木処理、 植物・野鳥・昆虫調査 ヒメコマツ周辺下刈、ボート調査	
7月16日(祝)	光環境調査(夏) 植物・野鳥・昆虫調査	
8月19日(日)	キノコ観察会(吹春講師) 植物・野鳥・昆虫調査	公開行事
9月17日(祝)	シカ個体数調査2、環境整備(観察路、ベンチ) 植物・野鳥・昆虫調査 ギャップ林植生調査	
10月14日(日)	キノコ観察会(吹春講師) 植物・野鳥・昆虫調査	公開行事
11月18日(日)	ホテイ岬地区整備 ホダ木伐採確保 植物・野鳥調査	
12月9日(日)	シカ個体数調査3 巨木林成長量調査、ホダ木玉切り 植物・野鳥調査 物置整備	
1月20日(日)	ホダ場保護柵整備 植物・野鳥調査	
2月17日(日)	光環境調査(冬)、栽培キノコ植菌 植物・野鳥調査 物置整備	
3月17日(日)	シカ個体数調査4、ヒメコマツ樹高・径計測 植物・野鳥調査	

(備考) 定例活動日の他に必要に応じて、臨時活動日を計画する。